

平成 29 年度 事業報告・決算報告

I 理事長あいさつ

日頃より、当会の活動にご支援、ご協力を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

2017 年度は 3 名の新たな介助犬使用者の誕生を迎えることが出来ました。3 名の方々は各地、各会で活躍をしておられ、介助犬によって活躍の幅を大きく広げる支援が出来たことを職員一同喜んでおります。

また、聖マリアンナ医科大学病院で勤務犬として活躍中のミカはメディアにも取り上げられ、多くの患者さんの心の支えとして活躍してくれています。

2017 年度は、訓練部では繁殖体制の確立とパピープログラムの向上に一層の努力を積み重ねて参りました。発達障害や高次脳機能障害のある方にはキャリアチェンジ犬を家族として迎え入れて頂き、たくさんのお喜びのお言葉をお聞きすることが出来ましたこと、嬉しく思っております。動物介在活動・療法については、ミカの後継犬導入のためにスウェーデンの Kyno-Logisch と連携し、2018 年には、いよいよ 2 代目勤務犬の誕生を迎える予定です。

広報部は他の部と一体となって普及啓発、ファンディングに取り組み、念願のホームページのリニューアルを実現させることが出来ました。総務部はファンディング担当者を設けて研修を受け、職員が一丸となってファンディングに取り組む努力を始めております。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、当会としても、パラリンピック出場を目指している介助犬使用者を全面的に応援して参りたいと考えております。今後とも益々のご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 伊藤 利之

1. 介助犬訓練事業

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、3組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

候補犬 29頭を確保し、訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

(3) 繁殖、パピー、候補犬としての成犬の導入

① 自家繁殖により 4回の出産を行い、27頭のパピーを確保した。

② Dogs for Kids with Disabilities より繁殖犬として成犬 1頭を導入した。

③ 関西盲導犬協会より 4頭のパピーを導入した。また北海道盲導犬協会、東日本盲導犬協会、日本ライトハウスより計3頭の盲導犬 CC 犬を導入した。

④ Kyno-Logisch (スウェーデンの盲導犬育成事業者)より飼育委託していた成犬3頭を導入した。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者 23 名に対し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。特に新規使用者に対しては月1回程度の継続指導を行い、その他の使用者に対しても障がいの進行によるニーズの変化など、必要に応じた再訓練を行った。

② 使用者交流会

使用者同士の情報交換とハンドリング技術の向上を目的とした「使用者の集い」を開催した。

(5) 就労支援

使用者の就労継続に関して相談支援を行った。

2. 人材育成・研究事業

(1) 訓練技術向上

① 合同訓練担当者の育成

1名の職員が合同訓練1ケースを担当した。

② 介助犬訓練士研修生の養成

第12期研修生3名が、介助犬の育成・普及活動に関わる全研修課程を修了した。
第13期研修生2名の入学が決定した。

(2) 研修

① 名古屋市総合リハビリテーションセンターへの研修派遣(5日間)

② 身体障害者リハビリテーション研究集会への研修派遣(2日間)

③ スウェーデン補助犬訓練事業者への研修派遣(12日間)

④ 海外からの講師招聘(3日間)

3. 相談・指導助言事業

(1) 介助犬希望者への相談

① 介助犬体験会・相談会

介助犬に関心のある障がい者を対象に体験会を実施した。(センター2回、本部1回)
また、見学会終了後に相談会を開催し、希望者への相談・アドバイスをを行った。

4. 補助犬関係団体協力事業

(1) 補助犬団体との連携強化

北海道盲導犬協会での訓練犬評価への参加及び繁殖業務における協力、日本盲導犬協会、関西盲導犬協会での繁殖業務における協力、北海道盲導犬協会、東日本盲導犬協会、日本ライトハウスからの成犬導入(評価入所含む)を行った。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

- ① ADI (Assistance Dog International) の認可団体になるために準備を行った。
- ② 職員1名が Kyno-Logisch (スウェーデンの盲導犬育成事業者) を訪問し、委託中の犬についての評価を行い、3頭の導入を行った。またゴールデンレトリバーのブリーダーを訪問し、2017年3月生まれの1頭の導入を決定した。
- ③ Career Dog Australia より Lauren Elgie 氏を招聘し、パピープログラム、繁殖プログラムについてのレクチャー、コンサルタンティングを受けた。
- ④ Lauren Elgie 氏の仲介により、Dogs for Kids with Disabilities より繁殖犬として成犬を1頭導入した。

(3) 介助犬認定審査員派遣

横浜市総合リハビリテーションセンター、兵庫県総合リハビリテーションセンター、名古屋市総合リハビリテーションセンター、千葉県身体障害者事業団へそれぞれ2名の審査員を派遣した。

5. 調査研究事業

(1) 各学会への参加

- ① 日本身体障害者補助犬学会 第10回学術大会へ団体会員として加盟し、一般演題発表を行った。

「2020 オリンピック・パラリンピック開催に向けて

身体障害者補助犬法とサービスドッグ同伴受入れの課題」 専務理事 高柳友子

「日本介助犬協会における研修生制度について」 訓練部 篠崎真理

「日本介助犬協会の繁殖事業の経過と課題解決に向けて」 訓練部 橋本友樹

「特別支援学校の教員に対する介助犬に関する調査報告 第二報」 訓練部 田辺冬華

「避難所における身体障害者補助犬の受け入れに関する調査」 総務部 井手法慧

- ② 第9回兵庫補助犬研究会へ参加し、一般演題発表を行った。

「介助犬使用者の就労に関する調査報告」 訓練部 柴原 永佳

- ③ 第10回動物介在教育・療法学会にて基調講演を行った。

「勤務犬導入における支援」 専務理事 高柳友子、訓練部 水上言

(2) リハ専門職等との補助具の開発

リハ専門職、義肢装具企業と連携し、使用者が介助犬と暮らすために必要な自助具の作成をした。

(3) 肢体不自由者のニーズ調査

全国の福祉機器展にて潜在的なニーズを持った希望者に対して情報提供・相談を行った。

6. 地域貢献活動

- (1) 動物介在療法として聖マリアンナ医科大学病院へ貸与した勤務犬についてハンドラー医師・看護師に対して継続的にハンドリング指導を実施

一昨年度勤務犬ミカを貸与した聖マリアンナ医科大学病院への継続した指導実施を行った。

- (2) 障がい者、障がい児に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬譲渡
 発達障がい、筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症の児童がいる家庭にキャリアチェンジ犬を譲渡した。
- (3) 長期療養患者、被虐待児童、社会適応障害児童等に対するAAA/AAT導入に対する検討、監修および実施協力
 PR犬による動物介在活動を聖マリアンナ医科大学病院(4回)・箱根病院(5回)・川崎市立多摩病院(5回)・野のすみれクリニック(5回)で実施した。
- (4) 障がい児向けの犬とのふれあい会等の開催に向けて検討及び実施
 2017年11月23日に障がい児向け犬とのふれあいイベント「ボクたちと遊ぼう!!」を開催し13名の障がい児が参加した。
- (5) 家庭犬飼育の質の向上を目指し、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対して交流会及び飼育指導実施

7. 普及啓発事業

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2017」を開催した。

② 地域に根ざした講演会を開催した。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
毎月第2土曜日 (5・3月を除く)	一般見学会	10	482名 (総数)	センター
7月26日(火)	子供向け見学会	1	60名	センター
8月22日(火)	シンシアの丘夏まつり	1	9名	センター
8月26日(日)	介助犬教室	1	24名	ダッドウェイ
9月2日(日)	夏休み介助犬イベント	1	923名	ららぽーと横浜
3月4日(日)	オープンハウス	1	700名	センター

③ はたらくワンワンランド（JA共済連主催）

42件を実施した。

(福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、岡山県、高知県、熊本県、以上14府県と全国本部)

④ イベント・講演依頼を受け実施した。

- ・イベント・講演会・・・センター：147件　本部：84件
- ・訓練センター視察・・・72件
- ・職場体験学習の受け入れを9校16名に対し行った。

(2) デモンストレーター養成

本部：交流会を開催した。参加者数5名

センター：中級セミナーを毎月実施した。受講者数49名（延べ）

(3) 普及啓発街頭募金活動

- ① 街頭募金啓発活動を行った
- ② 小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の街頭活動についても協力参加した。

(4) 募金箱設置

新規 152 個の設置を行い、全設置個数は 2,258 個となった。

(5) PR 犬の育成・訓練の実施

(6) ボランティアの確保

年 4 回の交流会を開催しボランティアの方々との友好を深めた。

センター：4 月 30 日（土）、12 月 29 日（金）

本部：8 月 19 日（土）、3 月 10 日（土）

(7) 賛助会員の新規入会促進・管理と継続支援者の確保

(8) 『ほじょ犬の日』イベント

5 月 22 日（月）スカイツリーで開催された『身体障害者補助犬啓発イベント』に参加しデモンストレーションを行った。

8. 広報活動

(1) マスコミ対応

新聞・雑誌、テレビ、ラジオ等の取材 118 件に対応した。

(2) 会報・HP の制作

会報制作では編集委員会で寄付増収プロジェクトを企画し実施した。

(3) ツイッター・フェイスブック等の活用

9. 補助・助成

(1) 介助犬貸与に関する補助

平成 29 年度認定者在住の北海道、愛知県より、介助犬貸与に対して給付される予定。

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として 103,000 円が給付予定。

長久手市より、介助犬広報啓発事業の補助として、300,000 円が給付。

(3) 助成団体事業

名称	金額	事業内容
全国生活協同組合連合会 中央共同募金会	300 万円	障害者の自立と円滑な社会参加を目指しての介助犬普及・啓発事業「～医療機関

全国労働者共済生活協同組合連合会		での補助犬受け入れ状況実態調査を通じての情報提供」
社会福祉法人清水基金	270 万円	福祉車両の更改(大型電動車いすの耐荷重に見合う昇降機の導入)
公益財団法人洲崎福祉財団	180 万円	動物介在活動および動物介在療法を目的とした犬の導入費用
ボーイング社	74 万円	職員・ボランティア向け講習会開催費用
中部ウォーカーソン	60 万円	海外からの講師招聘
毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金)	30 万円	介助犬トレーナー養成・研修生教育プログラム

(4) 団体・企業等(使途指定寄付)

名 称	金 額	内 容
札幌まるやまライオンズクラブ	240 万円	介助犬の育成費用として